

講 義 要 項

授業科目		治療援助技術		担当者	中村 美和子
区分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	15(30)時間	講義・演習・DVD・その他		2 年次・後期
授 業 目 標	1. 検査・処置に伴う治療援助技術を習得する。				
授 業 内 容	<p>1. 創傷管理技術</p> <p>1) 創傷管理の基礎知識 (1) 創傷とその治癒 (2) 創傷治癒のための環境づくり</p> <p>2) 創傷処置 (1) 創洗浄と創保護 (2) テープによる皮膚障害 (3) 包帯法</p> <p>3) 褥瘡予防 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際</p> <p>2. 症状・生体機能管理技術の基礎知識</p> <p>1) 症状・生体機能管理技術の基礎知識</p> <p>2) 検体検査 (1) 血液検査 (2) 尿検査</p> <p>3) 生体情報のモニタリング</p> <p>3. 診察・検査・処置の介助</p> <p>1) 診察の介助</p> <p>2) 検査・処置の介助 (1) X線撮影 (2) CT (3) MRI (4) 内視鏡検査 (5) 超音波検査 (6) 肺機能検査 (7) 核医学検査 (8) 穿刺</p>				
参 考 文 献 等	<p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(3), 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院.</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(4)、臨床看護総論, 医学書院.</p> <p>3. 成人看護技術, 南江堂.</p> <p>4. 看護技術プラクティス第3版, 学研メディカル秀潤社.</p>				

評価	1. 単位修得試験 検査・処置 50点、与薬・注射 50点 2. 出席状況、授業態度
備考	実務経験：看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。

講 義 要 項

授業科目		治療援助技術		担当者	内園 知美
区分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	15(30)時間	講義・演習・DVD・その他		2 年次・後期
授 業 目 標	1. 検査・処置に伴う治療援助技術を習得する。				
授 業 内 容	<p>1. 与薬の基礎知識・援助</p> <p>1) 薬物療法とは 2) 薬物の剤形と種類 3) 薬物の作用と効果 4) 与薬の原則と注意事項 5) 教育・指導・評価の視点 6) 与薬方法と看護 (経口与薬・口腔内与薬・吸入) 7) 与薬方法と看護 (点眼・経皮的与薬・直腸内与薬) 8) 与薬の実際 9) 実施上の注意事項・患者の観察・実施・記録・報告</p> <p>2. 注射の実際</p> <p>1) 静脈内注射 2) 筋肉内注射 3) 皮下注射 4) 非内注射</p> <p>3. 静脈血採血</p> <p>4. 輸液療法と看護</p> <p>1) 点滴静脈内注射 2) 中心静脈栄養法</p> <p>5. 輸液療法、点滴静脈内注射の管理</p> <p>1) 輸液療法、点滴静脈内注射の管理 (1) 感染防止の管理 (2) 滴下数計算</p> <p>6. 注射の実際</p> <p>1) 輸液療法、点滴静脈内注射の管理 (1) 注射の実際 (2) バイアルの取り扱い (3) アンプルの取り扱い (4) 血糖測定 (5) 採血(注射器・真空管)</p>				
参 考 文 献 等	<p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(3), 基礎看護技術 II, 医学書院.</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(4)、臨床看護総論, 医学書院.</p> <p>3. 成人看護技術, 南江堂.</p> <p>4. 看護技術プラクティス第3版, 学研メディカル秀潤社.</p>				

評価	1. 単位修得試験 検査・処置 50点、与薬・注射 50点 2. 出席状況、授業態度
備考	実務経験：看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。

講 義 要 項

授業科目		治療援助技術		担当者	末吉/稲森/赤坂/芝/前田
区分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	15 時間	講義・演習・DVD・その他		2 年次・後期
授 業 目 標	1. 検査・処置に伴う治療援助技術を習得する。				
授 業 内 容	<p>1. 生体情報のモニタリングの目的・方法及び留意点</p> <p>1) SPO₂測定方法 2) 12誘導 ECG</p> <p>3) 心電図モニター</p> <p>2. 酸素療法・吸入療法の種類と取り扱い時の留意点</p> <p>1) 酸素療法</p> <p>(1) 酸素供給方法</p> <p style="padding-left: 20px;">・中央配管の管理と使用方法の実際 ・酸素ボンベの取り扱いの実際</p> <p style="padding-left: 20px;">・残気量の計算</p> <p>(2) 酸素吸入方法</p> <p style="padding-left: 20px;">・鼻腔カテーテル ・酸素マスク</p> <p style="padding-left: 20px;">・酸素テント</p> <p>(3) エアゾール療法</p> <p style="padding-left: 20px;">・ネブライザー</p> <p>3. 吸引・体位ドレナージ</p> <p>1) 吸引の実際</p> <p>(1) 一時吸引</p> <p style="padding-left: 20px;">・気管内吸引 ・口腔内吸引</p> <p style="padding-left: 20px;">・鼻腔吸引</p> <p>(2) 持続吸引</p> <p style="padding-left: 20px;">・胸腔ドレナージの管理と実際 ・低圧持続吸引法</p> <p>2) 体位ドレナージ</p> <p>4. 放射線療法の原理と看護の要点</p> <p>1) 放射線暴露の防止</p> <p>(1) 看護業務と放射線被爆 (2) 放射線業務従事者の被爆限度</p> <p>(3) 放射線による人体への影響 (4) 放射線被爆</p> <p>5. 化学療法の原理と看護の要点</p> <p>1) 抗がん剤暴露の防止</p> <p>(1) 抗がん剤の人体への影響 (2) 抗がん剤の暴露経路</p> <p>(3) 抗がん剤の混合や与薬準備の際の注意点</p>				

	<p>6. 医療機器の種類と取り扱い、看護の方法</p> <p>1) 医療機器とは 2) 医療機器使用時の基礎知識 3) 医療機器取り扱い上の留意事項 4) 測定用医療機器 5) 治療用 ME 機器 6) 輸液ポンプ・シリンジポンプの実際</p> <p>7. 輸液・輸血療法の特徴・目的と援助方法</p> <p>1) 輸液・輸血療法と看護</p> <p>(1) 輸液療法とは (2) 輸液療法の目的・種類 (3) 輸液療法が必要な患者への援助 (4) 輸血療法とは・目的 (5) 血液の基礎知識・輸血の種類 (6) 輸血療法が必要な患者への援助</p>
<p>参 考 文 献 等</p>	<p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(3), 基礎看護技術 II, 医学書院. 2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(4)、臨床看護総論, 医学書院. 3. 成人看護技術, 南江堂. 4. 看護技術プラクティス第 3 版, 学研メディカル秀潤社.</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 単位修得試験、課題レポート、演習、出席状況により評価する。</p>
<p>備 考</p>	<p>実務経験：看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。</p>